

中間まとめに対するパブリックコメントに寄せられた意見 [学校教育環境整備等検討委員会]

	意見内容 (全文)
1	<p>「豊かな学びと育ちを促し、たくましく生きる力を育む小学校の教育環境の在り方」に対する検討委員会の中間まとめ〔学びと育ちを促す人的環境としての「集団」の在り方〕について、私見を述べます。</p> <p>本校においても、ここ数年の児童数の減少により、1学年の児童数のほとんどが10名以下という人数構成です。</p> <p>特に、第6学年は、男子2名、女子8名、計10名。第3学年においては、男子4名、女子1名、計5名。第1学年では、男子3名、女子3名、計6名であり、多くの仲間とともに学び合い、育ちあうといった視点からは弱さがあります。また男女比が不均衡であり、子供たち同士の人間関係づくりにおいても適した人数であるとはいえない状況です。</p> <p>検討委員会のまとめにあるように、「指導者も力を存分に発揮できる」とともに、何よりも「子ども達が思う存分に力を発揮できる」集団であることが大切であり、児童の居行くにとって望ましい学習集団の人数規模は18～20名程度は必要とする。という考え方には、私も統一した見解です。</p>
2	<p><学びと育ちを促す人的環境としての「集団」の視点から></p> <p>○ 児童の実態から</p> <p>本校は、全て園部幼稚園、城南保育所、聖家族幼稚園出身の児童である。</p> <p>つまり、本校入学以前は少人数集団ではなく、一定の集団の中で、様々な活動を体験して育ってきている児童である。しかし、本校に入学した日から、これまでとは極端に異なる少人数集団の中で学習活動が展開されることになる。そこで以前から近隣の同じ規模の学校同士が「小小連携」し、合同学習を実施してきた。</p> <p>しかし本年度は、2年生の児童が本校とは規模が全く異なる中規模校と連携し合同学習を実施した。結果は幼稚園や保育所を終了して1年少しという、まだ身近な関係の集団であるはずが圧倒される展開になった。どの場面に立っても、十分に力を発揮できる児童を育成することが私達の課題であるが、小学校卒業を控えた6年生においても同じことが考えられ、「中1ギャップ」の一要因になるのでは・・・と考える。同時に保護者の不安も相当なものであると推察される。</p> <p>適正人数でスタートした保幼期。今後、極端な少人数が予想される小学校期。そして再び適正人数の中学校期を迎える本校校区の子ども達のことを考える時、改めて適正規模の問題が浮上する。</p> <p>○ 人材育成の観点から</p> <p>学級の人数が1桁の担任を続けてきた教員が児童数30人の学級を指導することになった時、果たして充実した指導が出来るのだろうか。もちろん、児童一人ひとりを活かす実践が限定されている。教員の人材育成の観点からも適正規模の問題は深刻であると考えます。</p>
3	<p>[校種間連携について]</p> <p>小中学校9年間を見通した校種間の連携により(保・幼も)児童・生徒の豊かな学びにつながると思います。小学校から言えば、体育・音楽・図工・理科等の教科において中学校の先生に授業がしていただけるような専科制の取組も望みます。</p> <p>[人的環境の在り方について]</p> <p>様々な学習場面での学びの充実のために、20名程度の学習集団が必要だと思えます。</p> <p>[物的環境の在り方について]</p> <p>施設・設備の安全は何より重要なことだと思います。ハード面とソフト面の両方からの充実をお願いしたいと思います。</p>
4	<p>幼稚園から小学校、小学校から中学校へ、子どもが混乱することなく学びがつながっていくためにも、幼・小・中連携は大切であると思えます。子どもの将来の夢実現のために豊かな学びと確かな学力の定着に向けて今後も小・中の授業研究会などに参加して交流していくことは大切なことだと思います。</p>

中間まとめに対するパブリックコメントに寄せられた意見 [学校教育環境整備等検討委員会]

	意見内容 (全文)
5	<p>〔校種間連携の視点から〕 「学びと育ちの連続性」「段差解消」を目的とした保幼・小・中の連携事業は豊かな学びと育ちを促すために大変大切なことと考えます。指導者同士の連携についても今後、より充実させていきたいです。以前本校が英語活動を重点に取り組んでいたとき、高校生と小学生のお互いの学びの雰囲気がとても良かったので、他の教科でもできることはないのかなと思います。 〔人的環境としての「集団」の視点から〕 少なすぎても、多すぎても十分に子どもの力は発揮できないと思います。15～20名ぐらいは必要と思います。 〔物的環境の視点から〕 学校の安全安心の確保はもちろんのこと、地域連携の登下校指導、物を大切に作るエコスクール化等も推進していきたいと思います。また情報教育の視点から、掲示物等のカラーコピー等、より充実できたらうれしく思います。</p>
6	<p>校種間連携の取組には賛成だが、行事やイベント事を増やすことばかり考えるのではなく、お互いの活動の中身をまずよく知り、連携することが大切ではないかと考える。 学習集団として5～6名程度では確かに学習の広がりには限界を感じることもあるが、登校地域、通学時間など物理的な問題で保護者や子どもたちは、大きな負担がかからないように統合などの話は進めていただきたいと強く願うところです。 学校福祉の環境整備には、中・長期的なビジョンを持ってあたっていただきたいと思います。目先のことに飛びつかず、本当に市民、子ども達のためになるのかたくさんの方の意見を汲んで決めて欲しいと思います。</p>
7	<p>豊かな学びと育ちを促す校種間連携の推進を読んで、幼、小、中連携はとても有効な取組であると考えます。どんな学習をしてきたのかを知っておく必要はあり、そこからさらに発展した教育をする意識を持つべきだと言える。児童だけではなく、教師の見通しもしっかり持って、指導していくことでより豊かな学びとして広がっていくと考える。</p>
8	<p>保・幼・小・中・校の教職員が集まり、学力面、生徒指導面で意見交流する研修の場のより一層の充実が必要であると考えます。情報教育の視点から校内の情報設備の充実は大切であると考えます。</p>
9	<p>子ども達が、安全に安心して学習できるということは最も大切なことだと思うので、そのことを中心に議論されたことは、とても良いと感じました。学習環境につながる施設設備整備が学習の対象として捉えるというのは子ども達の豊かな学びにつなげる上でとても良い取組だと思います。</p>
10	<p>児童数が減少し続ける現状の中で、学習集団の在り方については検討が必要だと思えます。少人数だからできることや、よさはあると思いますが、多くの友達と学校生活を送る中で、もまれることにより競争心が生まれたり様々な学習や活動で力を発揮できたりするのではないのでしょうか。また少人数では友達関係が固定化して難しい面があります。規模として少なくとも18名～20名程度は必要であるという考えに賛成です。</p>
11	<p>豊かな学習環境を整えるために、各校の備品や施設の有効的な活用方法をする必要があると思えます。①各校の備品台帳の整備（台帳管理をデータ化することで正確な備品管理をする。②備品は各学校だけでなく南丹市全体でも自由に使用できるシステム備品を有効的に活用するために、どの学校でも使えるように各校の情報を共有できるシステム作りが必要と思えます。③南丹市全小・中学校で統一した整備を行うために教育委員会と小中学校担当者が一緒に検討できるように進めていただきたい。</p>
12	<p>校種間連携については、小1プロブレムなど学校生活への適応を図ることが難しい実態があることから具体的な連携を図ることが必要であると思えます。集団の在り方については、保護者の中には少ない人数なら指導が行き届くと考えられていますが、小学校の学習内容や学習方法を考えた時、中間まとめに示されているように、少なくとも20名程度の集団が学び合う集団として適切であると考えます。 物的環境の在り方については、本年3月に発生した東日本大震災を教訓として、児童の安心安全確保を最優先とし、児童が安心して学べる施設・設備の整備が重要であると考えます。</p>

中間まとめに対するパブリックコメントに寄せられた意見 [学校教育環境整備等検討委員会]

	意見内容 (全文)
13	<p>[校種間連携について] 「段差解消」案に賛成である。校種間連携をすることにより保育所や幼稚園、あるいは小学生が「大きくなったらあんなお兄さんになりたい、お姉さんになりたい」とか、「中学生になったら、あんな風に勉強を頑張りたい」と具体的な夢や希望を持つことは、一人一人の成長に大きな影響を及ぼすことになる。また、校種間連携を教師間ですることにより、それぞれの学校の教職員の良さや違いを学ぶことができ、幅の広い教育的視野を持つことになる。それは、進路指導を含めた教育に大いに役立つものと考えられる。</p> <p>[人的環境としての集団について] 「望ましい学習集団としては、少なくとも18名～20名程度」という提案に賛成である。意見交流をしながらともに学び合い、高まり合う集団作りや学習作りは小学校教育の中では特に大切なことである。そのための人数は提案のような人数は必要であり、考え方の幅を広げる大切な環境であると思う。</p> <p>[物的環境の在り方] 「安全面での環境整備が急務である」の提案に賛成である。安全な環境においてこそ安心して学習に励めるのだと思う。</p>
14	<p>[校種間連携の推進について] 校種間連携の推進により、学びと育ちの連続性ととも児童にとって自己の育ちの中での目標設定も重要な要素となる。学習意欲や学習に向かう姿勢作りの観点からも年間を通した取組を進めていく必要性を感じる。「親のための応援塾」の取組を行う中で、保護者から幼稚園・保育所の子ども達にとって大変よい機会・きっかけになっているという感想を伝えてもらっている。学校として段差解消に向けた多様な場面の設定をしていきたい。</p> <p>[「集団」の在り方について] 学校教育における望ましい学習集団としての規模として、18名～20名程度は私自身のこれまでの勤務・指導経験を通して同様に考える。児童が鍛え合うこと、多様な他者理解をしてその中で自分自身を磨き成長させていくこと、表現力を伸ばすこと、これらを含めさらなる教育効果・成果をあげられると考える。</p> <p>[物的環境の在り方について] 目に見える形での福祉の視点からのバリアフリー化は、児童にとって毎日の生活、体験を通して思いやりの気持ちやボランティア精神を育成していくために大変重要であるであると考え。その上で、地域連携を多様な形で行い、自分たちが主人公となり福祉環境を活かせるように取組を行いたい。</p>
15	<p>「もうすぐ1年生体験活動」は、地域の特性や資源を生かした校種間連携を進める上で意義深い取組であると考え。今後の課題としては、負担軽減の工夫にどう取り組むかであると思う。</p>
16	<p>[豊かな学びと育ちを促す校種間連携について] 親子共、不安なく進学できる様、保育所・幼稚園と小学校をつなぐ事業は必要だと思うが、働いている母親が増える中で日にちや回数の設定が課題だと思います。</p> <p>[豊かな学びと育ちを促す人的環境としての「集団」の在り方について] 少ない児童の中での行事など、集団活動ができないばかりか、競技としても成り立たないこともあるのではないかと思います。しかし、同じ集団で10年以上も共に過ごすのはメリットもある反面、デメリットも大きいのではないのでしょうか。</p> <p>[豊かな学びと育ちを促す物的環境の在り方について] 安心安全と言われる中で、学校のフェンスや校門の整備など施設の整備が必要です。また、登下校の安全確保では地域の方や保護者連携が必要だと思います。</p>

中間まとめに対するパブリックコメントに寄せられた意見 [学校教育環境整備等検討委員会]

	意見内容 (全文)
17	<p>[豊かな学びと育ちを促す校種間連携について] 校種間連携は必要だと思います。ただし、各校ごとの年間計画もあるので、回数・内容（特に発達の違いも考慮し）などを十分に考え、無理のない計画を立てることが大切であると思います。</p> <p>[豊かな学びと育ちを促す人的環境としての「集団」の在り方について] 特に球技スポーツや合唱などの学習場面では20名程度はいるほうが良いと思うので、学年を越えても合同学習などが有効であると感じています。国語や算数の学習では、構成メンバーにもよりますが、人数の多い少ないは一長一短であるように感じます。（しかし、5名以下では学び合いが成立しにくいのも事実です。）</p> <p>[豊かな学びと育ちを促す物的環境の在り方について] 中間まとめにあるとおり、「学校の安全・安心の確保は学校経営の基盤である」と思います。 ※3つの視点とも大切なことであるので、引き続き検討していただきたい。</p>
18	<p>校種間連携については、保幼・小・中学校がそれぞれどんな学びと育ちをしているのかと知ることが必要だと思う。特に、小学校へあがるとき、また、中学校へあがるときは子どもにとってかなり大きな不安がある。それを解消するためにもより一層の連携をしていく必要があると思う。</p> <p>集団の在り方については、小規模校は小規模校の良さもあるが、子ども同士の学びや深まりという点でいくと、やはり20名程度の集団は教育をする上でも望ましい集団であると思う。</p>
19	<p>校種間連携については、今、現在も南丹市教育委員会の指導の下、八木町の保幼小中学校連携推進事業の中で取組を進めているところでありますが、学びや育ちの連続性・一貫性という観点から、円滑な教育の接続が図れるようにすることは大切なことで、今後も継続的に取組を進めていきたい。また、人的環境としての在り方については、検討委員会のまとめのとおり、学習集団の規模は少なくとも20名程度（1クラスあたり）は必要であると考え。本校も2年生が11名ということで、体育の授業は内容によって1・2年生が合同学習をしていることもあるので集団規模は大切である。</p>
20	<p>[豊かな学びと育ちを促す校種間連携の推進について] 保・幼・小・中学校の校種間連携は、「小1プロブレム」「中1ギャップ」等の保幼・小・中の学びにおける段差を解消するために大変重要であると考え。特に、少子化傾向の南丹市では多くの人とのつながりの中で、学ぶ機会を増やすことが大切であり、様々な交流を行うことにより、子ども達の社会性を育てていけるものと思う。教師間の連携もさらに強化していけるようにし、互いに学び合い、研修を深めていきたいものである。</p> <p>[豊かな学びと育ちを促す人的環境としての「集団」の在り方について] 児童数が減少する中で、学級集団を望ましい在り方について今後十分に検討していく必要がある。20名程度の学級集団の中で、互いに切磋琢磨しながら高まり合える関係を築いていくことが大切であり、少人数の集団では多様な活動が展開しにくいと思われる。様々な活動・学習に深まりや広がりを持たせるためにも20名程度が望ましいかと思う。</p>
21	<p>[校種間連携について] 本校でも保育所・幼稚園と小学校をつなぐ「もうすぐ1年生体験活動」を1年生と2年生を中心に実施している。低学年の児童にとっては、新1年生と一緒に学習するという事で目的意識がはっきりしていて、意欲的にお兄さん・お姉さんぶりを発揮している。また、やさしく声をかけて教えてあげる姿も見受けられてほほえましい場面もある。保育所の年長児の保護者の反応は、概ね良好である。学校の行事を参観することで、小学校の学習の一環を知り、その中での児童の成長を自分の子に合わせて見ることができるようである。</p>

中間まとめに対するパブリックコメントに寄せられた意見 [学校教育環境整備等検討委員会]

意見内容 (全文)	
22	<p>○保幼・小・中・高連携が本校でも計画的に進められている。「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消や自分の進路を考える機会として大変有効であると感じる。但し、年度当初から計画的に進めていかなければ有意義な校種間連携が難しくなるので気をつけるべきだ。また、子ども達同士の交流だけでなく、中学校教師が小学校へ来て児童と関わりを持っていただく連携の仕方は（専門性を生かした指導など）大変うれしい。</p> <p>○集団の在り方について・・・中間まとめにあるように18名～20名程度の規模は何をするにも望ましいと思う。複式学級にも良さはあるかもしれないが、様々な意見や考え方にふれ、自分を見つめ直す機会は必要だと思う。今後、小学校の統合は必要だと思う。</p> <p>○物的環境の在り方について・・・本校に限らず、学校現場の夏場の教室環境は年々厳しくなっており、3階フロアでは最高40℃を記録する。カーテンやすだれ、扇風機だけでは対処できない。エコスクール化も考慮しつつ、学びやすい教室環境を作るべきだと思う。</p>
23	<p>校種間連携の推進として「もうすぐ1年生体験活動」は小学校での様子がよくわかったり、子ども達に関わる中で小学校での生活を意識して過ごすことができると思う。子ども同士で教え合ったり、仲良く関わりを深めることで豊かな学びへとつながっていくと思う。</p>
24	<p>少子化が進む中で望ましい学習集団の規模を18名～20名にしようと考え、学校の統廃合について考えていかなければならない。私は現在、市内の小学校に勤務しているが、本校もいよいよ100名を切る児童数になってきた。地域・保護者の意見を聞きながら、どのような規模・内容で統廃合するかを示し、準備を進めると良いと考える。その時に、これまでそれぞれの学校で積み上げてきた実践や地域とのつながりが、統合したことで薄れたり縮小したりすることがないようにしたいと考える。</p> <p>地域社会の宝である子ども達が、大人になってもこの地域社会を引き継いでいけるようにしていきたい。</p>
25	<p>○豊かな学びと育ちを・・・ということについて</p> <p>中間まとめですから、具体的なことは今よく分かりませんが、私の今思うところを述べさせていただきます。文化、ことに書道に関心が少なく、文化祭や新聞に載る（丹波地方）書を見て、レベルの低さ、また書道の教科書の内容のお粗末さ・・・。科学することは大切ですが、子ども心の成長に文化は大切です。一般人（教師だけでなく）も巻き込んで、文化人の育成に力を入れて頂きたく思います。放課後に、文化・スポーツを向上させる場を持つようにしてはどうかと思います。私も協力できます。1.2年生を対象にしますと力は着きます。3年生からの書道では遅いです。</p>

いただいたご意見等に対する教育委員会の考え方

いただきましたご意見・ご感想を12月9日開催予定の「学校教育環境整備等検討委員会」に報告することとしております。

なお、中間まとめの内容に対するもの以外に、学校の再編整備に関する意見もいただいております。この点につきましては、検討委員会の最終答申を踏まえ、教育委員会における具体化議論を行う際の参考とさせていただきます。